

令和6年度

高知県がん検診等事業所実態調査
報告書

高知県健康政策部健康対策課

目 次

1	調査の概要	1
(1)	調査のあらまし	1
(2)	調査項目	1
(3)	調査対象	1
(4)	調査対象の抽出	1
(5)	調査方法	2
(6)	調査期間	2
(7)	回収結果	2
(8)	報告書を読む際の留意点	2
2	事業所向け調査の結果（職域におけるがん検診等に関する調査）	5
(1)	事業所の概要について	5
(2)	事業所のがん検診の現状について	10
(3)	事業所でのがん検診実施後の対応について	19
(4)	事業所でのがん検診の受診者を増やす取組について	23
(5)	事業所の「治療と仕事の両立支援」に関する取組について	34
3	従業員向け調査の結果（従業員のがん検診の受診状況等に関する調査）	39
(1)	自身に関することについて	39
(2)	がんに対する印象・認識について	42
(3)	「がん検診」の受診状況について	43
(4)	がん検診受診情報の入手経緯について	51
(5)	治療と仕事の両立支援について	59
4	数表（事業所向け調査）	63
(1)	事業所の概要について	64
(2)	事業所のがん検診の現状について	69
(3)	事業所でのがん検診実施後の対応について	117
(4)	事業所でのがん検診の受診者を増やす取組について	128
(5)	事業所の「治療と仕事の両立支援」に関する取組について	141
5	数表（従業員向け調査）	151
(1)	自身に関することについて	152
(2)	がんに対する印象・認識について	154
(3)	「がん検診」の受診状況について	156
(4)	がん検診受診情報の入手経緯について	176
(5)	治療と仕事の両立支援について	184
6	資料	191
(1)	調査票（事業所向け調査）	192
(2)	調査票（従業員向け調査）	196

1 調査の概要

(1) 調査のあらまし

職域がん検診は保険者や事業主が任意で実施しているものであり、実施状況を把握する仕組みがないため、調査により職域の実態を把握し、第4期高知県がん対策推進計画（R6～R11）における受診率向上施策の立案に活用する。

事業所向け調査（職域におけるがん検診等に関する調査）では、従業員に対する「がん検診」の実施状況や取組等について調査し、従業員向け調査（従業員のがん検診の受診状況等に関する調査）では、「がん検診の受診」や「仕事とがん治療の両立」についての状況や意識などについて調査した。

(2) 調査項目

〈事業所向け調査（職域におけるがん検診等に関する調査）〉

- ①事業所の概要について
- ②事業所のがん検診の現状について
- ③事業所でのがん検診実施後の対応について
- ④事業所でのがん検診の受診者を増やす取組について
- ⑤事業所の「治療と仕事の両立支援」に関する取組について

〈従業員向け調査（従業員のがん検診の受診状況等に関する調査）〉

- ①自身に関することについて
- ②がんに対する印象・認識について
- ③「がん検診」の受診状況について
- ④がん検診受診情報の入手経緯について
- ⑤治療と仕事の両立支援について

(3) 調査対象

〈事業所向け調査〉

総務省統計局「令和4年次フレーム事業所母集団データベース」において、常用雇用者数10人以上の事業所で、日本標準産業分類の「公務」、「分類不能の産業」を除く業種から抽出した3,000事業所

〈従業員向け調査〉

調査対象となった事業所から、各1名の従業員3,000人

(4) 調査対象の抽出

層化比例配分無作為抽出法

常用雇用者数から母集団を7層に分け、調査対象数が3,000になるように比例配分したのち、各層から乱数を用いて抽出した。また、調査票が宛先不明等で返送されたときなど、調査期間の終了日より1週間前となる令和6年6月12日まで、調査対象を新たに抽出した。

層	母集団	調査対象 (当初)	調査対象 (確定)
10～19人	3,094	1,653	1,643
20～29人	1,102	589	589
30～49人	722	386	386
50～99人	467	250	250
100～199人	151	81	81
200～299人	46	25	25
300人以上	29	16	16
合計	5,611	3,000	2,990

(5) 調査方法

各事業所に事業所向け調査票と従業員向け調査票を同封し郵送したのち、郵送での回収またはインターネットでの回答により実施した。

(6) 調査期間

令和6年5月30日から令和6年6月19日まで（21日間）

(7) 回収結果

〈事業所向け調査〉 1,043票（有効回収率：34.9%）

〈従業員向け調査〉 1,065票（有効回収率：35.1%）

従業員向け調査については、1事業所から1名を超えて回答があったものを有効とし、調査対象数に加算している（17事業所から、1名を超えて回答があった47票を調査対象数に加算）。

	事業所向け調査		従業員向け調査	
	件数	比率	件数	比率
回収数	1,052	35.2%	1,075	35.4%
無効票	9	0.3%	10	0.3%
有効票	1,043	34.9%	1,065	35.1%
調査対象	2,990	100.0%	3,037	100.0%

(8) 報告書を読む際の留意点

- ① 回答比率（%）は、当該選択肢の回答者数を、各設問における回答者の総数で除算している。

なお、回答比率（%）は小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表記している。

- ② 単一回答の設問では、集計表の数値が上記①における四捨五入の処理のため、回答比率を合計しても100.0%にならない場合がある。

また、複数回答の設問では、すべての比率を合計すると100%以上となる場合がある。

- ③ 事業所向け調査については、特に指定のない限り、常用雇用者の状況についての回答をお願いした。

また、特に指定のない限り、令和5年度（令和5（2023）年4月1日から令和6（2024）年3月31日まで）の状況についての回答をお願いした。

〔用語について〕

常用雇用者：期間を定めずに雇用されている人または1か月以上の期間を定めて雇用されている人

従業員：事業所に所属して働いているすべての人

- ④ 国が推奨する5つの部位（胃、大腸、肺、乳、子宮頸）のがん検診を中心に質問した。

- ⑤ 「がん検診」という名称の検診を受けた場合だけではなく、職場の定期健康診断や人間ドック等でがんの検診を受けた場合も含めた回答をお願いした。

〔例〕

バリウムを飲みX線を撮る検査＝胃がん検診

胸部のX線（レントゲン）を撮る検査＝肺がん検診

【国が推奨する5つのがん検診】

- 胃X線検査
バリウム（造影剤）と発泡剤（胃を膨らませる薬）を飲み、胃の中の粘膜を観察する検査
- 胃内視鏡検査
口または鼻から内視鏡（胃カメラ）を挿入し、胃の中を内視鏡で直接観察する検査
- 大腸がん検診（便潜血検査）
便を採取して、便に混じった大腸からの出血を調べる検査
- 肺がん検診（胸部X線検査）
胸部のX線（レントゲン）を撮る検査
(女性の方のみ)
- 乳がん検診（マンモグラフィ検査）
乳房を圧迫板で挟み、乳房専用のX線（レントゲン）装置で撮影する検査
- 子宮頸がん検診（細胞診）
子宮頸部の細胞を採取する検査

検診種類		対象者	検診間隔
胃がん	内視鏡	50歳以上男女	2年に1回
	X線	40歳以上男女	毎年
大腸がん			
肺がん			
乳がん		40歳以上女性	2年に1回
子宮頸がん		20歳以上女性	

